

# The sixth space design competition

ガラスの質を生かした建築

## 都会のホタル

「道」は様々なコミュニケーションを育んできた。出逢い、語り、憩い... 生活の中の様々な場面を演出するいわばステージのようなものだ。

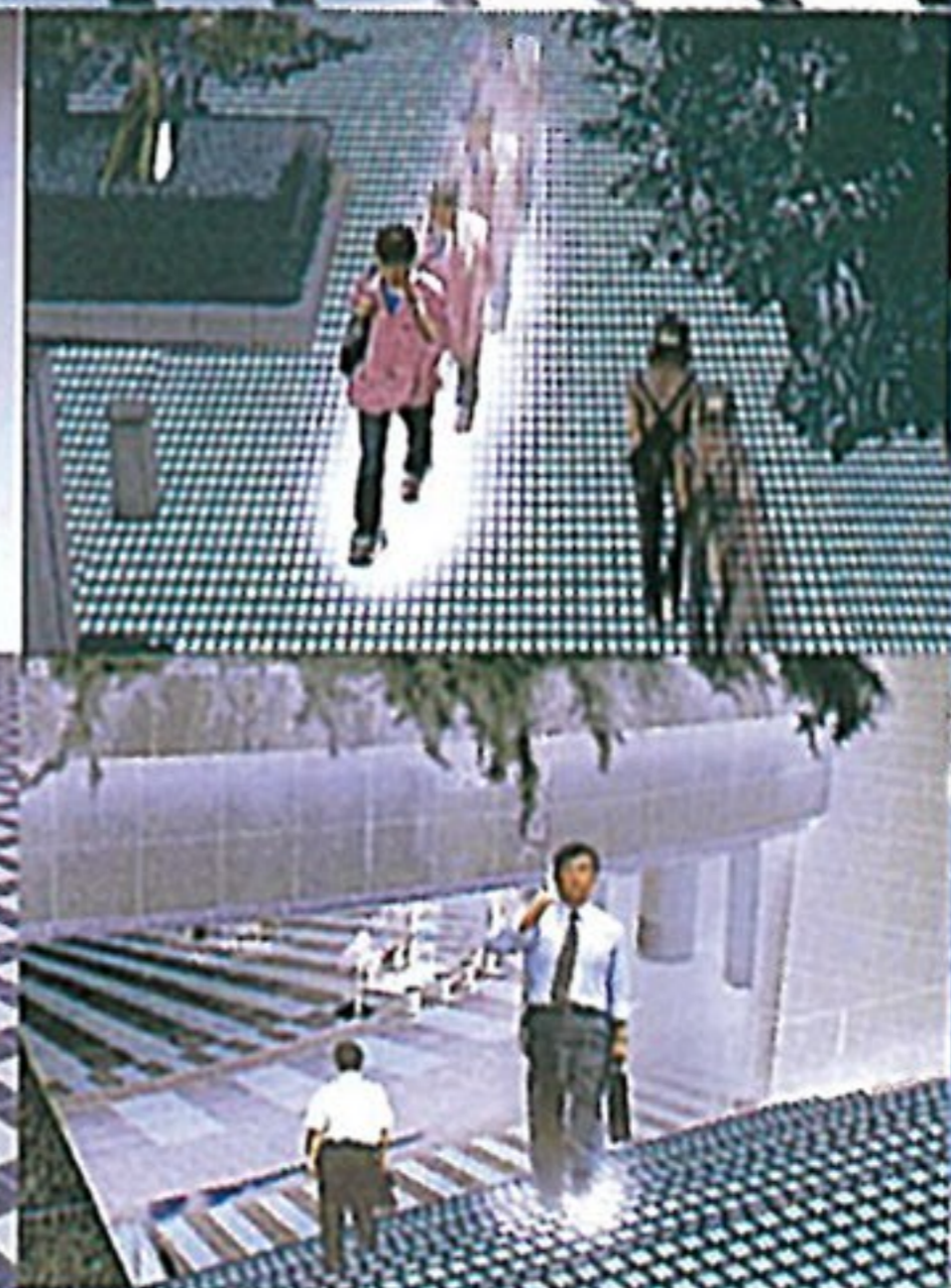
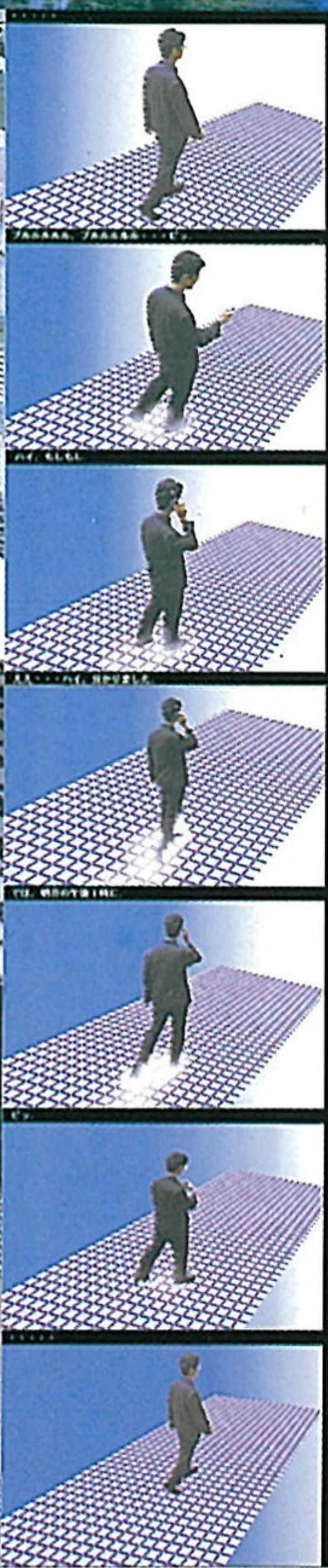
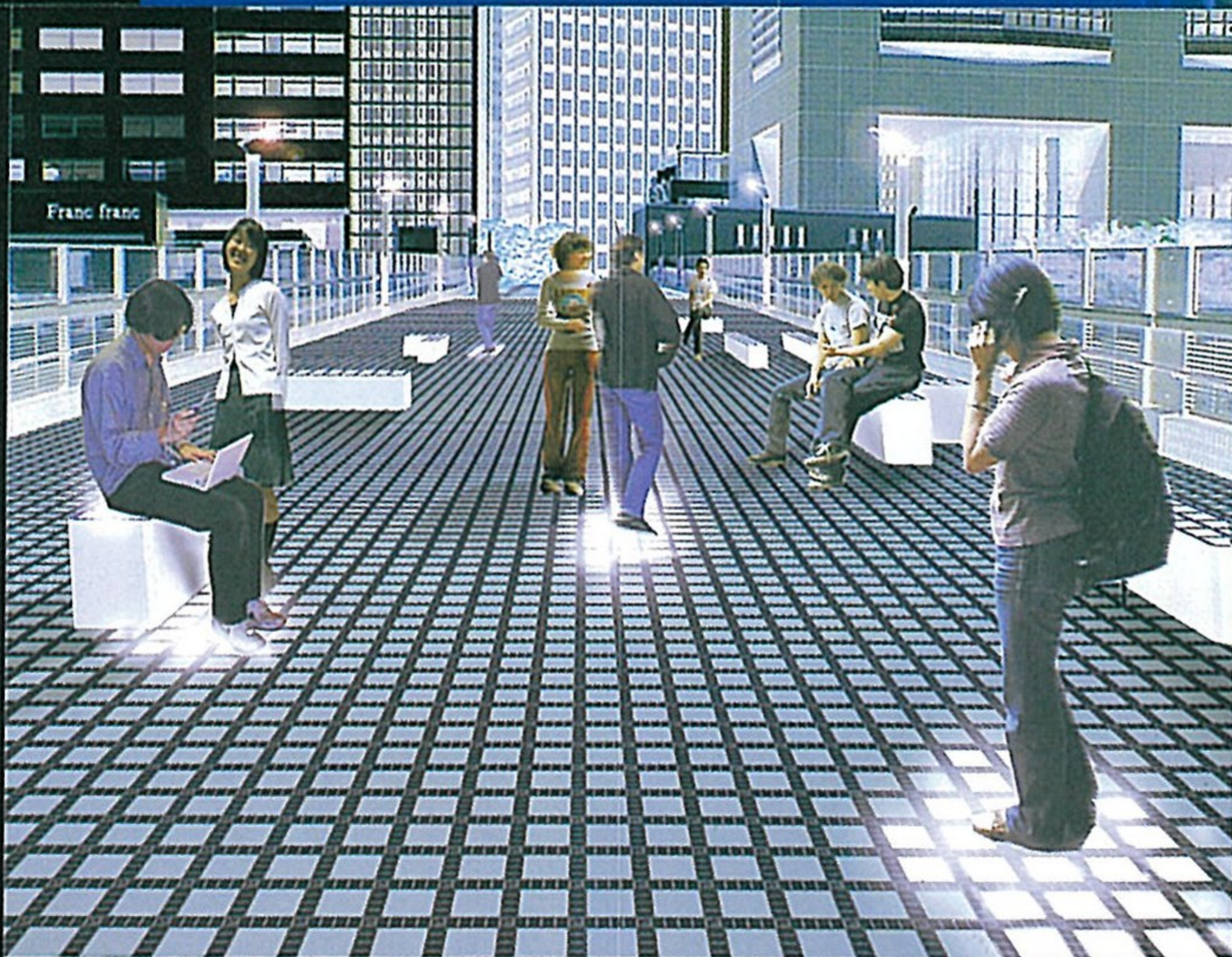
最近、そんな役割を持った「道」では、携帯電話の普及を反映するかのよう新しいコミュニケーションシーンを見かけるようになった。

携帯電話をしながら足早に通り抜けてゆくビジネスマン。ベンチに腰をおろしてモバイルを操る学生。待ち合わせ場所で、互いに携帯電話を使いながら駆け寄る女子高生。今まで思いもよらなかった光景が「道」に出現している。

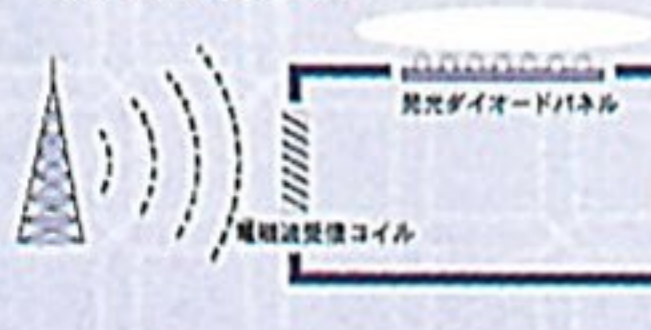
目に見えない電磁波でつながるコミュニケーション。それは伸び、スイッチひとつでつながり切れたりする。携帯電話を片手に道行く人々は、突然訪れる偶発的なコミュニケーションを求めさまよっているのだろうか。

電磁波を受信した床パネルは淡い光を放ち、そこにコミュニケーションの生まれたことを知らせる。それはまるで夏の夜の川べりに飛び交うホタルのように都会の夜道を彩ってくれることだろう。

今夜もまたどこかで都会のホタル達が生まれては消え生まれては消え... それを繰り返しながら伸び飛び交っているに違いない。



<パネル点灯システム>



<太陽電池システム>



発光する床パネルは芯々125mのグリッドにのっており、90m四方の発光ダイオードパネルと25m幅の太陽電池パネルによって構成されている。昼間は太陽電池パネルによって太陽エネルギーを電気エネルギーに変換し充電用二次電池に蓄えて、夜間の発光ダイオードの点灯に備える。

夜間は通行人の携帯電話に飛んできた800~1500MHzの電磁波を受信回路がキャッチし、発光パネル点灯システムにスイッチが入り、日中に蓄えられた二次電池を利用して点灯する。スイッチは季節別のタイマー設定によって制御されており、日中に発光ダイオードが点灯することはない。

図説

